

◎文学研究科アジア文化史専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		専攻分野に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有する	専攻分野に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有する	専攻分野に関する学術研究の遂行及び成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意識を有する
AS100-01-5C-1	歴史資料論Ⅰ	◎		
AS100-02-5C-1	歴史資料論Ⅱ	◎		
AS100-03-5C-1	物質文化資料論	◎		
AS100-04-5C-1	情報資料論	◎		
AS200-01-5R-2	アジア文化史演習Ⅰ		◎	○
AS200-02-5R-2	アジア文化史演習Ⅱ		◎	○
AS200-03-6R-3	アジア文化史演習Ⅲ		○	◎
AS200-04-6R-3	アジア文化史演習Ⅳ		○	◎
AS200-05-5E-2	日本古代史特論Ⅰ		◎	○
AS200-06-5E-2	日本古代史特論Ⅱ		◎	○
AS200-07-5E-2	日本中世史特論Ⅰ		◎	○
AS200-08-5E-2	日本中世史特論Ⅱ		◎	○
AS200-09-5E-2	日本中近世地域社会史特論Ⅰ		◎	○
AS200-10-5E-2	日本中近世地域社会史特論Ⅱ		◎	○
AS200-11-5E-2	日本近世史特論Ⅰ		◎	○
AS200-12-5E-2	日本近世史特論Ⅱ		◎	○
AS200-13-5E-2	日本近現代史特論Ⅰ		◎	○
AS200-14-5E-2	日本近現代史特論Ⅱ		◎	○
AS200-15-5E-2	北方アジア史特論Ⅰ		◎	○
AS200-16-5E-2	北方アジア史特論Ⅱ		◎	○
AS200-17-5E-2	中国古代史特論Ⅰ		◎	○
AS200-18-5E-2	中国古代史特論Ⅱ		◎	○
AS200-19-5E-2	中国中世史特論		◎	○
AS200-20-5E-2	アジア民族史特論		◎	○
AS200-21-5E-2	日本考古学特論Ⅰ		◎	○
AS200-22-5E-2	日本考古学特論Ⅱ		◎	○
AS200-23-5E-2	アジア考古学特論Ⅰ		◎	○
AS200-24-5E-2	アジア考古学特論Ⅱ		◎	○
AS200-25-5E-2	日本民俗学特論Ⅰ		◎	○
AS200-26-5E-2	日本民俗学特論Ⅱ		◎	○
AS200-27-5E-2	アジア地域環境論		◎	○
AS200-28-5E-2	日本列島人文環境論		◎	○
AS200-29-5E-2	地域解析学		◎	○

◎文学研究科アジア文化史専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）		
		専攻分野に関する幅広い視野、専門的な知識及び思考力を有する	専攻分野に関する研究課題について、高度に専門的で、学術的な価値の高い知見を有する	専攻分野に関する学術研究の継続的遂行及び成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意識を有する
AS300-01-5R-1	アジア文化史演習Ⅰ	◎	○	○
AS300-02-5R-1	アジア文化史演習Ⅱ	◎	○	○
AS300-03-6R-2	アジア文化史演習Ⅲ		◎	○
AS300-04-6R-2	アジア文化史演習Ⅳ		◎	○
AS300-05-7R-3	論文指導Ⅰ		◎	◎
AS300-06-7R-3	論文指導Ⅱ		◎	◎

◎アジア文化史専攻博士前期課程授業科目及び履修単位

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
選 択 必 修 科 目 (基 礎 科 目)		
歴史資料論Ⅰ (日本史資料)	永 田 英 明	2
	兼 平 賢 治	
	七 海 雅 人	
歴史資料論Ⅱ (中国史資料)	下 倉 渉	2
物質文化資料論	佐 藤 敏 幸	2
情報資料論	小 沼 孝 博	2
	河 西 晃 祐	
選 択 科 目		
日本古代史特論Ⅰ	永 田 英 明	2
日本古代史特論Ⅱ	永 田 英 明	2
日本中世史特論Ⅰ	七 海 雅 人	2
日本中世史特論Ⅱ	七 海 雅 人	2
日本中近世地域社会史特論Ⅰ	竹 井 英 文	2
日本中近世地域社会史特論Ⅱ	竹 井 英 文	2
日本近世史特論Ⅰ	兼 平 賢 治	2
日本近世史特論Ⅱ	金 子 祥 之	2
日本近現代史特論Ⅰ	河 西 晃 祐	2
日本近現代史特論Ⅱ	河 西 晃 祐	2
北方アジア史特論Ⅰ	松 谷 基 和	2
	デュセンアイル・アブドゥラシム	
北方アジア史特論Ⅱ	小 沼 孝 博	2
中国古代史特論Ⅰ	下 倉 渉	2
中国古代史特論Ⅱ	(本 年 度 休 講)	
中国中世史特論	下 倉 渉	2
アジア民族史特論	小 沼 孝 博	2
	デュセンアイル・アブドゥラシム	
日本考古学特論Ⅰ	佐 川 正 敏	2
日本考古学特論Ⅱ	佐 川 正 敏	2
	イシツェリン	
アジア考古学特論Ⅰ	木 山 克 彦	2
アジア考古学特論Ⅱ	木 山 克 彦	2
	イシツェリン	
日本民俗学特論Ⅰ	政 岡 伸 洋	2
日本民俗学特論Ⅱ	政 岡 伸 洋	2
アジア地域環境論	目 代 邦 康 (兼 任)	2
日本列島人文環境論	(本 年 度 休 講)	
地域解析学	目 代 邦 康 (兼 任)	2
必 修 科 目		
アジア文化史演習Ⅰ (日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅱ (日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅲ (日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅳ (日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅰ (日本中世史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅱ (日本中世史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅲ (日本中世史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅳ (日本中世史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅰ (日本中近世地域社会史の研究)	竹 井 英 文	2
	小 沼 孝 博	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅱ (日本中近世地域社会史の研究)	竹 井 英 文	2
	小 沼 孝 博	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅲ (日本中近世地域社会史の研究)	竹 井 英 文	2
	小 沼 孝 博	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅳ (日本中近世地域社会史の研究)	竹 井 英 文	2
	小 沼 孝 博	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅰ (日本近世史の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅱ (日本近世史の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅲ (日本近世史の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅳ (日本近世史の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅰ (日本近現代史の研究)	河 西 晃 祐	2
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	

授 業 科 目		担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅱ (日本近現代史の研究)	河 西 晃 祐	2	
	兼 平 賢 治		
	政 岡 伸 洋		
アジア文化史演習Ⅲ (日本近現代史の研究)	河 西 晃 祐	2	
	兼 平 賢 治		
	政 岡 伸 洋		
アジア文化史演習Ⅳ (日本近現代史の研究)	河 西 晃 祐	2	
	兼 平 賢 治		
	政 岡 伸 洋		
アジア文化史演習Ⅰ (北方アジア史の研究)	小 沼 孝 博	2	
	木 山 克 彦		
	デュセンアイル・アブドゥラシム		
アジア文化史演習Ⅱ (北方アジア史の研究)	小 沼 孝 博	2	
	木 山 克 彦		
	下 倉 渉		
アジア文化史演習Ⅲ (北方アジア史の研究)	小 沼 孝 博	2	
	木 山 克 彦		
	デュセンアイル・アブドゥラシム		
アジア文化史演習Ⅳ (北方アジア史の研究)	小 沼 孝 博	2	
	木 山 克 彦		
	下 倉 渉		
アジア文化史演習Ⅰ (中国古代史の研究)	(本 年 度 休 講)		
アジア文化史演習Ⅱ (中国古代史の研究)	(本 年 度 休 講)		
アジア文化史演習Ⅲ (中国古代史の研究)	(本 年 度 休 講)		
アジア文化史演習Ⅳ (中国古代史の研究)	(本 年 度 休 講)		
アジア文化史演習Ⅰ (中国中世史の研究)	下 倉 渉	2	
	佐 川 正 敏		
	七 海 雅 人		
アジア文化史演習Ⅱ (中国中世史の研究)	下 倉 渉	2	
	佐 川 正 敏		
	七 海 雅 人		
アジア文化史演習Ⅲ (中国中世史の研究)	下 倉 渉	2	
	佐 川 正 敏		
	七 海 雅 人		
アジア文化史演習Ⅳ (中国中世史の研究)	下 倉 渉	2	
	佐 川 正 敏		
	七 海 雅 人		
アジア文化史演習Ⅰ (日本考古学の研究)	佐 川 正 敏	2	
	木 山 克 彦		
	永 田 英 明		
アジア文化史演習Ⅱ (日本考古学の研究)	佐 川 正 敏	2	
	イ シ ッ ユ リ ン		
	木 山 克 彦		

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅲ (日本考古学の研究)	佐 川 正 敏	2
	木 山 克 彦	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅳ (日本考古学の研究)	佐 川 正 敏	2
	木 山 克 彦	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅰ (アジア考古学の研究)	木 山 克 彦	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅱ (アジア考古学の研究)	木 山 克 彦	2
	イ シ ッ ユ エ リ ン	
	佐 川 正 敏	
アジア文化史演習Ⅲ (アジア考古学の研究)	木 山 克 彦	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅳ (アジア考古学の研究)	木 山 克 彦	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅰ (日本民俗学の研究)	政 岡 伸 洋	2
	金 子 祥 之	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅱ (日本民俗学の研究)	政 岡 伸 洋	2
	金 子 祥 之	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅲ (日本民俗学の研究)	政 岡 伸 洋	2
	金 子 祥 之	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅳ (日本民俗学の研究)	政 岡 伸 洋	2
	金 子 祥 之	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅰ (物質文化の研究)	金 子 祥 之	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅱ (物質文化の研究)	金 子 祥 之	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅲ (物質文化の研究)	金 子 祥 之	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅳ (物質文化の研究)	金 子 祥 之	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	

履修方法

前期課程においては、2年以上在学して、上記授業科目より30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

- (1) アジア文化史演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは必修科目とし、8単位以上を修得するものとする。
- (2) 基礎科目のうち3科目を選択必修とし、6単位以上を修得するものとする。
- (3) ヨーロッパ文化史専攻に開設されている授業科目の中から選択履修できるものとし、4単位を限度に課程修了に必要な単位として認める。

文学研究科アジア文化史専攻博士課程前期課程における研究指導計画と論文審査基準・体制

1. 博士課程前期課程における研究指導計画

必修の「演習」では修士論文の完成を目指す。2年次前期の構想発表会と後期の中間発表会において本専攻の全教員による指導を行う。修士論文の完成に向けては、主指導教員（論文審査の主査に予定）以外に、1名の副指導教員（論文審査の副査に予定）も指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月 研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員（主指導教員と副指導教員）を決定する。

各大学院生は、本専攻の基礎科目4科目から3科目を選択する。当該指導教員が担当する「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を履修し、その助言を受けて研究テーマに適合する「特論」の履修科目を決定し、履修登録する。

「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」及び「特論」等では修士論文の作成に必要な基礎的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を行う。

9月 各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。

12月 各大学院生は、修士論文の論文題目を仮決定し、指導教員に報告する。

【2年次】

4月 各大学院生は、1年次に引き続き指導教員が担当する「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」を履修し、またその助言を受けて関連する2年次の履修科目を決定・登録する。

各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を構想発表会で報告し、専攻に関わる全教員の指導と助言を受ける。あわせて学位論文の概要を指導教員に提出する。

各大学院生は、指定された日時に「修士論文題目届」を提出する。

10月 各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況を中間発表会で報告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。

1月 修士論文の提出

1月～2月 審査委員（主査1名、副査1名）を決定し、論文審査並びに口述試験を含む最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。

2. 修士論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

修士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ① テーマの選択が明確であること。
- ② 研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえた上での研究課題であること。
- ③ 研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④ 独自の知見や発想、斬新な着眼点を示す研究であること。
- ⑤ 論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥ 言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、修士論文の審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査1名）が選任され、論文査読と口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、修士論文としての可否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位（修士）を授与することになる。

◎アジア文化史専攻博士後期課程授業科目及び履修単位

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅰ (東アジア世界の中の日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅰ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅰ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	2
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
アジア文化史演習Ⅰ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅰ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	2
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅰ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	2
	河 西 晃 祐	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅰ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	2
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅰ (中国古代・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅰ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅱ (東アジア世界の中の日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅱ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅱ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	2
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
アジア文化史演習Ⅱ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅱ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	2
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅱ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	2
	河 西 晃 祐	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅱ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	2
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅱ (中国古代・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅱ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅲ (東アジア世界の中の日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅲ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
アジア文化史演習Ⅲ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	2
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
アジア文化史演習Ⅲ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅲ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	2
	政 岡 伸 洋	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅲ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	2
	河 西 晃 祐	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅲ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	2
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅲ (中国古代・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅲ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅳ (東アジア世界の中の日本古代史の研究)	永 田 英 明	2
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
アジア文化史演習Ⅳ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	2
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
アジア文化史演習Ⅳ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	2
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
アジア文化史演習Ⅳ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅳ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	2
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	
アジア文化史演習Ⅳ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	2
	河 西 晃 祐	
	兼 平 賢 治	
アジア文化史演習Ⅳ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	2
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅳ (中国古代・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	2
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
アジア文化史演習Ⅳ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	2
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
論文指導Ⅰ (東アジア世界の中の日本古代社会の研究)	永 田 英 明	4
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
論文指導Ⅰ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	4
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
論文指導Ⅰ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	4
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
論文指導Ⅰ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	4
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
論文指導Ⅰ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	4
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	
論文指導Ⅰ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	4
	小 沼 孝 博	
	兼 平 賢 治	
論文指導Ⅰ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	4
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
論文指導Ⅰ (中国古代・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	4
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
論文指導Ⅰ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	4
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	

授 業 科 目	担 当 者 名	単 位
論文指導Ⅱ (東アジア世界の中の日本古代史の研究)	永 田 英 明	4
	佐 川 正 敏	
	七 海 雅 人	
論文指導Ⅱ (日本中世政治制度史・地域社会史の研究)	七 海 雅 人	4
	下 倉 渉	
	竹 井 英 文	
論文指導Ⅱ (日本中近世移行期の政治・社会の研究)	竹 井 英 文	4
	七 海 雅 人	
	小 沼 孝 博	
論文指導Ⅱ (日本近世の政治と社会の研究)	兼 平 賢 治	4
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	
論文指導Ⅱ (日本近現代の政治と社会の研究)	河 西 晃 祐	4
	兼 平 賢 治	
	政 岡 伸 洋	
論文指導Ⅱ (東アジアの中の日本とその文化的特性の研究)	政 岡 伸 洋	4
	河 西 晃 祐	
	兼 平 賢 治	
論文指導Ⅱ (考古学からみた東アジアと日本の先史・古代社会の研究)	佐 川 正 敏	4
	小 沼 孝 博	
	永 田 英 明	
論文指導Ⅱ (中国古代理・中世の政治と社会の研究)	下 倉 渉	4
	佐 川 正 敏	
	永 田 英 明	
論文指導Ⅱ (アジアにおける民族社会の形成と展開の研究)	小 沼 孝 博	4
	河 西 晃 祐	
	政 岡 伸 洋	

1. 履修指導・研究指導の方法

- (1) 博士後期課程を修了する標準的条件は、3年以上在学して12単位(演習8単位、論文指導4単位)以上を修得し、研究指導を受けて博士論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格することとする。ただし、特に優れた研究業績をあげたものについては、在学期間を短縮して、2年の在学期間をもって修了できるようにする場合がある。
- (2) 博士後期課程の学生は既に修士論文を作成した経験をもっているのが普通であり、入・進学の時点である程度まで研究テーマが絞られている。そのテーマを真に意味のあるものに鍛え上げ、確実な成果を上げるように次のような演習、論文指導を行う。

アジア文化史演習Ⅰ (1年次)	あらかじめ提出させた「研究計画書」をもとに、所属する「研究分野」ごとに、主指導教員を中心として、専門領域を異にする複数の教員によるセミナーを行う。先ず博士論文のテーマ及びその研究方法の確認を主たる目標とし、必要に応じて、先行研究の調査、史・資料の蒐集、読解の指導を行う。
--------------------	---

アジア文化史演習Ⅱ (2年次)	直接、博士論文の指導にあたる主指導教員を中心とする複数の教員の協力による指導体制のもとで、博士論文の骨格の確認を目標とするセミナーを行う。研究の進展段階に応じて、必要な先行研究の整理、史・資料の蒐集、読解の指導を行う。
論文指導 (2・3年次)	アジア文化史演習と同じ指導体制のもとで、博士論文作成に必要な具体的指導を行う。

文学研究科アジア文化史専攻博士課程後期課程における研究指導計画と論文審査基準・体制

1. 博士課程後期課程における研究指導計画

博士課程後期課程は研究者養成を主眼としているので、専門分野についてより高度な指導を行う。提出された「研究計画書」をもとに、研究関連分野の原典及び研究論文の読解を中心とする「演習」を2年間にわたって行い、その後の「論文指導」を含めて、指導教員（主指導教員と副指導教員）がそれぞれの専門分野において博士論文完成までの指導を行う。その過程で博士論文提出までに学術雑誌に論文3本（うち査読付き1本）を発表させる。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月 研究科教員によるガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、主指導教員及び副指導教員を決定する。

各大学院生は、指導教員の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を履修し、指導教員と相談の上、1年次終了時の到達目標を決定する。

9月 各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について、指導教員に報告し、指導と助言を受ける。

2月 各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月 1年次に引き続き各大学院生は、指導教員の「演習Ⅲ」「演習Ⅳ」を履修し、授業を通して博士論文のテーマに即した指導を受ける。

6月 各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。

2月 各大学院生は、「博士論文中間報告書」を指導教員に提出する。

【3年次】

4月 各大学院生は、指導教員の「論文指導Ⅰ」「論文指導Ⅱ」を履修し、博士論文の完成を目指して必要な助言と指導を受ける。

6月 各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について中間報告会で報告し、指導教員を含む本専攻の全教員から指導と助言を受ける。

1月 博士論文を提出する。

1月～2月 審査委員4名（主査1名・副査3名）を決定し、論文査読、口述試験を含む最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。承認された博士学位論文は本学学術情報リポジトリに公表することが義務づけられている。

2. 博士論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

博士論文は、学術研究論文として下記の基本的要件を備えていることが審査基準となる。

- ①テーマの選択が明確であること。
- ②研究対象分野における先行研究を十分に把握し、これを踏まえた上での研究課題であること。
- ③研究資料の蒐集・分析・解釈が的確であること。
- ④研究内容や着眼点に独創性があり、当該研究分野への学術的な貢献ができる研究であること。
- ⑤論文の構成と内容に論理的一貫性があり、論理の展開が明確であること。
- ⑥言語表現が的確であり、書式が規定に基づいていること。

(2) 審査体制

本専攻では、博士論文の審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査3名：うち1名は学外の専門研究者）が選任され、論文査読と口述試験による最終試験が実施され、その結果は論文審査結果報告書に記載される。論文審査結果報告書は、本専攻会議の協議を経て文学研究科委員会に諮られ、博士論文としての合否の判定が行われる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議後、学位（博士）を授与することになる。